

家庭数

学校教育目標 「生き生きした 活力のある子」  学校だより さいたま市立大牧小学校	令和2年度 7月号 No.442 令和2年7月1日 発行	7月の目標 ◎ ものを大切にしよう ・身の回りの整理整頓をしよう ・持ち物に名前を付けよう
---	--	--

㊦いさつや返事がしっかりできる、㊩っしょう懸命学習に取り組む、㊥つくしく掃除の行き届いた、㊧がおのあふれる ㊦お牧小学校

守・破・離

校長 間宮 和宏



長かった休校期間が明け、ひと月がたとうとしています。ガラガラした日差しで暑い中を頑張って登下校する子どもたちのあいさつの声を聞くと、さわやかな風のように感じることもあります。本来なら、来るべきオリンピック、パラリンピックのカウントダウンに心躍らせている頃かと思いますが、まずは学校生活を軌道に乗せていきたいところです。

さて、校長室前の壁にはあってある、浦和レッズのハートフルクリニックでいただいた取組のテーマに「守・破・離」の3文字が挙げられています。もともと兵法の用語だった「守破離」という言葉ですが、茶道などでは修行の段階を表す言葉でもあります。

「守」は始めたばかりの段階で、教わった作法を守り繰り返しけいこをして基本を身につけます。この「守」で習得した基本を応用する段階が「破」です。そして「守」から始まり「破」を経て、最終的に自由闊達の境地の「離」へ到達されるとされています。

子どもたちが勉強するときやスポーツするとき、音楽や絵画、ダンスなどの習い事をするとき最初にするのは、基礎・基本を身につけることです。建物でいえば、基礎とは一番下で家を支える土台のこと、基本とは柱や家が傾かない、つぶれないようにする中心のことです。どんなことにも基礎と基本があり、これがしっかりと身につかなければ進歩や上達はしません。基礎・基本を守る、先生や先達の教えを守るということで「守」につながります。

基礎・基本を身につける上で大切なことの一つ目は、先生などよくわかっている人にしっかりと教えてもらうことです。自分だけで勝手にやっているとずれたり、抜けや漏れが出たりしてだんだん上達しなくなります。二つ目は、繰り返すことです。基礎・基本は大切な形ですから、それがしっかりと身につくまではがんばって繰り返し練習することが大切になります。これが「守」です。

基礎・基本が身についたなら、次はそれを使ってもっとよくなるように工夫するようになります。自分なりに工夫することで楽しくなってくるのです。これが「破」です。

さらに工夫や努力を続けていくと、だんだんと自分なりのやり方や取り組み方、考え方が出てきます。これが「離」となりますが、その時に、大元である基礎・基本や自分の工夫、「守」と「破」を忘れないことが大事になります。

学校での学習もこの道筋をたどっています。国語や算数などの勉強の中で基礎・基本を教えてもらいます。教わったことが身につくことを習得といいます。次に、それを使って課題に自分なりに工夫して取り組んで問題を解決する学習をします。これを活用といいます。これが「破」につながります。さらに習得したことや活用する経験を生かして自分で学習課題を作り、解決するような探求する活動が総合的な学習の時間などで出てきます。つまり「離」となるわけです。

このように子どもたちも各教科などの学習で「習得・活用・探求」を学んでいます。基礎・基本をしっかり身につけることから始めて、活用・探求するように「守・破・離」で学びを深めていけるようにしていきたいと思います。

まだまだ予断は許しませんが、まずは、心のケアをしっかりと行い、日々の授業を充実させ、学校生活のリズムをしっかりと身につけさせ、「守・破・離」のスタートの基礎・基本を大切に、夏休みまでの残り21日間をしっかりと過ごさせていきたいと思います。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、十分に活動できなかったり、先にお知らせしたとおり、様々な行事ができなくなっていたりする現状があります。しかし、今月も「ともにのびよう あいうえ大牧小学校」を推進していけるよう取り組んでいきます。引き続きご理解ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

※市内のどこか一か所でも「震度5弱」以上の地震が観測された場合には、「引き渡し」を実施します。学校からの連絡を待たず、来校をお願いします。